

房総 だより

(農)房総食料センター

千葉県山武郡横芝光町上原 368-1

<http://www.boso.or.jp/>

☆産地情報をお知らせします。

発行：2020年8月7日

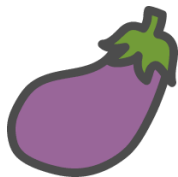
野良仕事

梅雨明けのピーカン

ながーい梅雨が明け、急に厳しい暑さとなりました。平年よりも11日も遅い梅雨明けとなり、夏野菜には影響が出ています。『親の意見と茄子の花は 千に一つも無駄はない』ということわざがあります。なすは花が咲くと必ず実をつけることから、親の忠告には何一つ無駄が無い、ということの例えだそうです。(※)露地栽培のなすは風や虫によって自然に受粉されるので、花が咲いただけ実になるように見えるのですが、今年は実が付きません。花が咲いても低温や日照不足が続くと、受粉が不完全となり、花が落ちてしまいます。

匝瑳市のなす生産者、布施裕之さんに様子を伺うと「そもそも花の数が少ない。晴天が続くようになってからもまだ少ないので、影響が残っている。風が吹くとすぐ傷がついてしまうから、無傷のなすばかりはできないんです。でも栽培面では、ミネラルたっぷりの土づくりで、食べた人が健康になるといいなと思って作ってます。気温が高くなったので、毎日の水かけも必要になって、手がかかるようになるけど、頑張ります！」と話してくれました。「親の意見は、、いくつになっても恐い！かな。『地震・雷・火事・おやじ』で育った世代だから」と笑います。

暑さを味方につけて、野菜の生育がはやく戻るよう、生産者もがんばっています。(B) ※大辞林 第三版より



なす生産者 布施裕之さん →

